



会 長 阿部 佳文 副会長 善方 邦雄 クラブ会報 太田 恭寿
 会長エレクト 藤井 利則 幹 事 菅野 守芳

会長あいさつ

会長 阿部 佳文



皆さんこんにちは、本日は夜間例会観桜会の予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大が止まらない状況もあり、急遽中止になりましたこと大変に申し訳ありません。安全安心を第一に決定いたしましたのでご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

テレビや新聞でご存知と思いますが、4月16日に行われた、二本松ロータリークラブの60周年記念の事業で「未来を変えるスポーツの力」と題して、東洋大学陸上競技部の酒井監督と8名の箱根駅伝を走った8名の学生選手と陸上競技を行っている二本松市及び近隣の陸上クラブの小中学生および二本松市内の中学生とその保護者100名ちかく参加しておりました。当日はあいにくの雨で気温も低く心配しましたが、朝8時前には多くの子供たちが保護者と一緒に会場に来ておりました。テント設営の準備や受付開始を始めた頃も雨が止まず寒さが厳しかったのですが、東洋大学の選手が到着したころ雨やむ時間も出来て役員の人たちは安堵しておりました。

安斎幹事は、競技だけ出来れば酒井監督の講演はプランBで隣の小学校体育館を使う事を手配していたようです。準備に十分な手配と時間をかけていることがうかがわれました。

9時より開会式
 鈴木会長挨拶
 実行委員会挨拶
 三保恵一 二本松市長挨拶
 安斎東洋大学理事長(二本松市出身)
 酒井監督(学法石川高校卒)

※裏面につづく

本日のプログラム

近況報告

4・5月のプログラム

第1308回例会：4月21日(木)／通常例会
 4月28日(木)／**特別休会**
 5月5日(木)／**祝日に付き特別休会**
 第1309回例会：5月12日(木)／会員スピーチ
 第1310回例会：5月19日(木)／地区協議会報告会
 第1311回例会：5月26日(木)／夜間移動例会

幹事報告

当クラブのガバナー補佐候補を、6月新旧会長・幹事会までに決定して欲しいとガバナー補佐より指示がありました。

●国際ロータリークラブ会長
 シェカール・メータ(インド)

●国際ロータリー第2530地区ガバナー
 志賀 利彦 (いわき小名浜ロータリークラブ)

●県北第一分区ガバナー補佐
 佐藤 宗弘 (福島西ロータリークラブ)

四つのテスト

言行はこれに照らしてから
 一、真実かどうか
 二、みんなに公平か
 三、好意と友情を深めるか
 四、みんなの為になるかどうか

創 立 1993.6.30
 承 認 1993.9.10
 認証状伝達式 1993.11.8
 地 区 番 号 2530
 クラブ番号 29750
 例 会 日 毎週木曜日(12:30~13:30)

例 会 場 二本松商工会議所
 事 務 局 〒964-8577
 福島県二本松市本町 1-60-1
 二本松商工会議所
 Tel0243-23-3211
 Fax0243-23-6677

鈴木会長は挨拶で、「子供たちが走る楽しさや、さらに夢をもってスポーツに打ち込むことの大切さを実感してもらい、将来箱根駅伝を走るといった夢や目標を持つ子供たちを育成するために実施します」とありました。

酒井監督からは自己紹介と学生選手の紹介がありました。

9時30分から10時30分にはランニング講習会として各選手と各グループでグループごとに自由に各自走り方や効果的なトレーニング、ストレッチ方法などの指導がありました。

10時40分から11時10分には箱根駅伝ランナーチャレンジレースとして参加チームの子供たちと学生選手でタスキをつなぐ駅伝形式のレースを行い、青空も見られました。もちろん学生選手にハンデとして2分から1分の時間を付けて

スタートしておりました、結果として3チームくらいは学生選手に勝った子供たちがいました。11時20分より監督の講演会が行われ、予定通りグラウンドで行われました。

酒井監督は「夢中になれることがある人は成長できる。どんな分野でもいいから、夢中になれることを見つけて極めてほしい」と語っていました。

終了後は子供たちが学生選手から持ち物やユニホームに全員のサインを書いてもらって学生選手も帰る時間ぎりぎりまで懸命にマジックでサイン書き本気だったのが印象的でした。

昼過ぎからは日が差して良い天気になり楽しい時間を過ごすことが出来ましたことをご報告いたします。



近況報告会

本日例会のプログラム予定は観桜会の予定になっておりましたが、県内、及び二本松市での新型コロナウイルス感染症の感染者が、依然として増加しており通常での観桜会開催は、困難との判断からやむ得ず例会は大幅に時間を短縮にして、例会に出席した会員一人、ひとりに近況報告をしてもらいました。

観桜会を楽しみにされていた皆様にはご迷惑をお掛けしてしまう事を深くお詫び申し上げます。



ロータリー米山記念奨学事業とは・・・

公益財団法人ロータリー米山記念奨学金(以下、米山奨学会)は、日本のロータリーが共同で運営する民間奨学団体です。米山奨学会では日本で学ぶ外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業を行っています。

なぜ、外国人留学生を支援するか？

この事業は1952年、東京ロータリークラブ(RC)が発表した「米山基金」に始まります。

日本のロータリーの創始者である故・米山梅吉氏の生前の功績を讃え、後世まで残るような有益な事業を行いたい・・・東京 RC が設立したのは、海外から優秀な学生を日本に招き勉学を支援する奨学金事業でした。その背景には、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、平和日本を世界に伝え、国際親善と世界平和に寄与したいという、戦後のロータリアンたちの強い願いがありました。

ロータリー米山記念奨学金の特徴

交流を大切にしています。奨学生は毎月一回以上、世話クラブの例会に出席し、会員との交流によって日本の社会を知り、ロータリークラブについて学びます。また、奨学期間終了後も「ロータリー学友」として、国際ロータリーの国際的コミュニティに参加することができます。

民間最大の国際奨学事業

2019学年度の奨学生数は868人、事業費は14億4千万円(2018-19年度決算)と、外国人留学生を対象とする民間奨学金では国内最大規模です。これまでの累計奨学生数は21,023人(2019年7月現在)、その出身国は世界129の国と地域に及びます。

世話クラブ・カウンセラー制度

奨学生一人ひとりに地区内のロータリークラブが、「世話クラブ」となります。奨学期間中、奨学生は世話クラブで奨学金を受け取り、交流します。さらに、世話クラブの会員が「カウンセラー」となって日常の相談役をつとめます。

毎年の寄付で事業を運営

2018-19年度の寄付金収入は14億1,157万と、前年度から約2千万の減少となりました。財団設立50周年を迎えた前年度と比較してやや減少したものの、ほぼ変わらぬご支援をいただきました。奨学生採用数が年々増えているため、奨学金支出が増加しています。

いただいた寄付金のほとんどは奨学金に、そのほか、奨学生・学友関係費、地区・世話クラブへの補助費、事業部門の事務局人件費など事業費に使われています。

カウンセラー委嘱状辞令交付



会長から委嘱状を受け取る斎藤敏夫会員

ニコニコ BOX

にこにこ BOX 小委員長 根本 和志

善方邦雄会員、安部敏弘会員、菅野秀夫会員、根本和志会員、渡辺正弘会員
菅野守芳会員、阿部佳文会員、橋本哲弥会員

- * 米山記念寄与者…渡辺正弘会員、善方邦雄会員
- * ロータリー財団…阿部佳文会員、安部敏弘会員、菅野守芳会員

◇皆様の善意に感謝致します。ありがとうございました。

出席委員会 小委員長 根本 和志

会員数	本日出席	出席率	メイクアップ	修正率
35名	16名	45%	15名	88%

ニコニコ BOX

目標額	550,000円
小計	8,000円
累計	309,000円